一宮市総合計画策定市民会議　第１部会
第 10 回検討会議　記録

日　時：2006 年 9 月 18 日（月・祝）9：00～12：20、13：20～18:30
場　所：尾西生涯学習センター　５階　会議室Ｄ
出席者：市民委員 12 名(第 4 部会から前半と後半で１名ずつ参加)
　　オブザーバー：経済振興課長、庁内検討ＰＴリーダー１名（前半）
　　事務局：企画政策課から前半１名、後半１名
　　市民フォーラム２１・NPO センターから前半１名、後半 2 名

１．はじめに

・市担当課の紹介がなされた。

２．指標づくり

行政課題	商工業が発展する活気あるまちである
生活場面	（言葉の定義） 「商工業」 ・工業（繊維／電子・家電／その他、大企業） ・商業（商店街／郊外ショッピングセンター） 「発展」 ・販売価格 ・みんなが正規従業員 ・給料がある程度の水準である→人材の確保 ・競争力 「活気あるまち」 ・人が集まる、交流がある ・新規産業が起きてくる ・景観がよい ・企業誘致 ・空洞化していない ・国・行政のバックアップ （生活場面） ○商業 ・商店街に多数の客が集まるイベントがある ・地元商店街の特色を活かしたイベントがある ・人の往来が多い ・若い人に魅力のある商店街である ・細やかなサービス ○工業 ・新たな繊維産業がある ・繊維産業に代わる産業がある ・特色ある研究センターがある ・若者が活き活きと学んでいる ・若者がチャレンジできる ・付加価値を付ける ○市民・地域・担い手

	・通り過ぎる街から、滞在する街へ ・繊維の街のプライドを持っている ・若者が地元企業に就職する ・外国人も不自由なく働ける ・地域内流通（生産～消費まで） ・収入が多い ○環境・行政 ・交通アクセスの便が良いことが活かされている ・駅ビルなど、景観がよい。 ・外からの人が来て賑わっている ・行政が目標をもって産業を推進している ・商工会議所の指導力がある
指標（案）	○商業 ・地元商店街で買い物をしている人の割合★ ・シャッターを降ろしている人の割合 ・市外の人の訪れる割合 ○工業 ・事業所数 ・出荷額 ・生産額 ・一宮ブランドの数 ・起業者数★ ・廃業者数 ○市民・地域・担い手 ・地元産業（商工）に就職する若者の数★ ・地元の商工業の有効求人倍率

行政課題	安心、安全な消費生活を送ることができる
生活場面	（言葉の定義） 「消費生活」 ・日々の生活で消費する（衣・食・住、レジャー） ・環境破壊（ネガティブなイメージ） ・リサイクル 「安心・安全」 ・気をつかわない ・人に勧めることができる ・病気になる危険から守られている ・価格が適正である ・偽物がない ・保証がある ・生産過程が明らかである（トレーサビリティ） ・取扱説明書がある ・行政の指導が十分 ・店の信用がある ・情報がある ・クーリング・オフがスムーズにできる ・リコール ・苦情を言う所がある

	・契約がきちんとしている （生活場面） ◆予防 ○消費者教育 ・悪徳業者の手口が周知されている ・賢い消費者になるための教育が行われている ・子供達に安心できる教育体制が出来ている ○安全な商品 ・品質の保証 ・添加物の少ない商品を選ぶことが出来る ○説明 ・生産者がわかる ・消費期限の明示 ・流通経路がはっきりしている ・商品説明にうそ・偽りがない ○監視 ・行政・NPO の監視体制がしっかりしている ・計量事業がきちんとなされている ◆救済 ・クーリング・オフが守られ、安全である ・あらゆる相談が１ヶ所で出来る ・親切な相談対応が出来ている
指標（案）	◆予防 ○教育 ・消費者に対する教育を行っている学校数 ・相談窓口や対応策について認知している人の割合★ ○安全な商品 ・消費生活に危険を感じている人の割合★ ◆救済 ・トラブル件数／リコール件数、消費生活センターへの相談件数★

★：部会の最終案として残った指標

３．指標の確認【後半】

・これまで出された指標について、確認の作業が行われた。各指標に対して、市民フォーラム２１・ＮＰＯセンターの藤岡よりコメントがなされ、とくに、中間的客観指標が多く出てきており、それらを包括するような最終指標を考えることの提案がなされた。

・検討に当たっては、3 つのグループにわけ、それぞれで、4～5 個の生活課題について検討をした。

（検討の結果、決定した指標）

「一生を通じて多様な働き方の選択ができ、生きがいをもって働くことができる」

① 自分に合った働き方が出来ていると思っている人の割合（主観指標）

② 自分に合った仕事に就けたと思っている人の割合（主観指標）

③ 就職希望者の就職率（客観指標）※再検討する

「農業に活気があり、地域の特色を活かした地場農産物が流通している」
① 農業を継続したい人の数＋農業に従事したい人の数（主観指標）
② 地元農産物の一宮卸売市場での取扱高（客観指標）

「豊かで健やかな食生活を送っている」
① 食事の量と質を適正にとっている人の割合（主観指標）
② 生活習慣病になっている子ども（18 歳まで）の割合（客観指標）

「育児についての不安や悩みがない」
① 育児について相談相手（場所）がいると思っている子育て世帯の割合（主観指標）
② 子どもの虐待件数（客観指標）
③ 子育て支援を行う地域サークル・NPO の数（客観指標）

「安心して充実した医療サービスが受けられる」
①医療サービスに安心感をもっている人の割合（主観指標）
②医療事故に関するトラブル件数（客観指標）
③市民病院と地域医療機関双方の紹介率（客観指標）

「市立病院の経営が健全である」
① 人（従事者）・施設・資金が正しく適切に使われていると思っている人の数（主観指標）
※アンケートの設問項目でそれぞれの項目についてさらに詳しく聞いてはどうか。
② 経営改善指標の改善度（客観指標）
③ 経営意識をもって働いている職員の数（主観指標）

「児童館・児童遊園など子どもが安心して遊べる場所がある」
① 身近な遊び場で子どもが危険だと感じている人の割合（主観指標）
② 児童館・児童遊園の維持管理数（客観指標）
③ 子どもの犯罪・事故の発生件数（客観指標）

「誰でも働きながら子どもを産み育てることができる」
① 出産育児休暇後、正職員として職に就いた人の数（客観指標）
② 地域の保育サービス（ボランティア、NPO、コミュニティ・ビジネスなど）の利用者数（客観指標）
③ 男女別の育児休暇の取得率（客観指標）
④ 子どもが小学生までの親の勤務時間（客観指標）

「健康づくり・健康維持のための取り組みに力が入れられている」
① 健康維持のため何か取り組んでいる人の割合（主観指標）
② 健康づくりを広める機会（場）や人（推進員など）の数（客観指標）
③ 住民検診の受診率（客観指標）

「高齢者になっても健康であるように介護予防が充実している」
① 保健・医療・福祉機関の連携が図られていると感じている市民の割合（主観指標）
② 身近な地域で開催される「生きがい健康づくり」の場に参加するお年寄り（60 歳以上）の数（客観指標）
③ “ 虚弱老人 ” のうち介護保険サービス対象者に移行しない人の数（客観指標）
※“ 虚弱老人 ” という言葉については再度検討する

「誰でも安心して福祉サービスを受けることができる」
① 介護サービスに満足している人の割合（主観指標）
② 福祉サービスに支払う金額（対価）が妥当であると思う人の割合（主観指標）
③ 福祉サービスについて公平な情報（第三者評価など）をもつ相談相手（場所）がいると感じている人の数（主観指標）
④ 福祉サービスを利用している人の数（客観指標）

「地域の中で誰もが互いに支え合う仕組みがある」
① 身近な地域内の問題を地域内で話し合っていると感じている人の割合（主観指標）
② 地域活動の運営へ参加している人の割合（客観指標）
③ ＮＰＯ・町内会・行政の連携に関する指標　※再度検討する

「高齢者が生きがいをもって活躍している」
① 社会に活躍の場を得ている高齢者の割合（主観指標）
② 地域活動へ参加している高齢者の数（客観指標）

４．次回検討会議の日時と議題について
日時：9 月 24 日（日）9:00～12:00
場所：調整中
次回検討する課題：
「若者が暮らしたいと思うまちである」
また、検討中の指標について、再度議論をする。

以上